

- ☆2019年度政策制度県要請
- ☆第2回地協議長・事務局長会議/災害ボランティア救援隊研修
- ☆平和行動in根室
- ☆青年委員会「ユースラリー」/地域フォーラム
- ☆ネット21運動「自然体験プランin尾瀬」「山の学校inときがわ」
- ☆チャリティーゴルフ大会結果報告/10月の行動予定
- ☆あけぼのビル

勤労者・生活者の視点で取りまとめた 7分野20項目の要請

2019年度政策制度要請を大野知事へ手交

9月17日(火)、連合埼玉は大野元裕埼玉県知事へ2019年度政策・制度要請(7分野20項目)を提出した。

要請書提出にあたって、近藤会長から「連合埼玉は『働くことを軸とする安心社会』をめざして取り組んでいる。雇用労働政策、福祉社会保障政策、子育て・介護政策そして防災対策など、安心して働き続けることのできる社会、人と人との信頼でつながる社会の構築に向けて、今年は7分野20項目の要請としてまとめた。要請の策定に当たっては構成組織や地域協議会の組合員から意見を集約し、勤労者・生活者の視点で取りまとめた。勤労県民の総意として受け止め、積極的な検討をお願いしたい」と要請文章を手渡した。



近藤会長より大野知事へ要請書を手渡し

要請を受けた大野知事からは、公共サービス基本条例、障がい者のグループホーム、児童虐待対策、LGBTQへの対応などの項目に対してコメントするとともに、「今後も労働者・県民の代表としてご提案をお願いし、また、県政に対するご支援・ご協力をお願いしたい」と挨拶された。

10月には県の関係部局との話し合いを持ち、次年度の予算編成に反映されるよう取り組みを進める。また、各地域協議会においては11月から12月にかけて該当エリア内の市町村に対し、政策制度要請をおこなう予定となっている。

要請内容については、連合埼玉ホームページ
 <活動報告>政策・制度要請 よりご覧ください。

政策制度要請と各種選挙の課題について共有をはかる

～ 2019年度第2回地協議長・事務局長会議を開催 ～

9月6日(木)あけぼのビルにおいて12地域協議会より22名が参加し、2019年度第2回地協議長・事務局長会議を開催した。

冒頭、近藤会長より「今年は選挙イヤーということで、4月に第19回統一地方選挙、7月に第25回参議院選挙、8月に埼玉県知事選挙があり、地域協議会には多大なる協力をいただいたことに感謝申し上げます。参議院選挙は連合として『政権交代可能な二大政党的政治体制構築の足がかり』と位置づけ、活動を展開したが、立憲民主党と国民民主党に分かれて、これまで経験したことのない非常に厳しい選挙であった。結果は比例区で組織内候補10名中8名、選挙区で44名中18名の当選にとどまり、埼玉県選挙区でも2名中1名の当選となった。埼玉



冒頭挨拶する近藤会長

で、これまで経験したことのない非常に厳しい選挙であった。結果は比例区で組織内候補10名中8名、選挙区で44名中18名の当選にとどまり、埼玉県選挙区でも2名中1名の当選となった。埼玉

県知事選挙は、連合埼玉は大野もとひろ氏を推薦し応援した結果、みごと当選された。今後は連合埼玉が主張してきた『労働者・生活者の立場にたった県民主役の県政』を実現していけることを望む」と挨拶があった。議事では2019年度政策制度要請における市町村要請を中心とした説明や、地協ブロック連絡会・首長懇談会に関する確認、地協活動報告の提出依頼等をおこなった。また各種選挙における意見交換では、「政党が分かれ選挙区の候補者が2名でやりづらかった」「構成組織と地協の役割の明確化と早く情報がほしい」等の多岐にわたる意見が出された。今後の選挙に向けて課題を共有させていただき今後の体制に反映させていく。



会議の様子

災害時のチームビルディングとリーダーシップ

災害ボランティア救援隊隊員研修(中級編)

9月21日(土)連合埼玉災害ボランティア救援隊隊員研修(中級編)が、全5名(連合埼玉の隊員2名、ARCS隊員3名)参加のもと、開催された。

研修では、連合埼玉の災害ボランティア救援隊の活動報告の後、災害救援ボランティア推進委員会の宮崎賢哉氏より「災害時のチームビルディングとリーダーシップ」と題し、被災地へボランティアに行ったことを想定した図上訓練を実施した。

図上訓練では、5名が1つのチームを編成し、ボランティアに行くのに必要な装備品の確認から始まり、ボランティア現場での作業手順の確認、休憩の取り方、隊員の1人が体調不良になった時の対応、ゲリラ豪雨などの急な天候変化への対応、リーダー不在時の緊急事態への対応、活動終了後の行動など、現場で起こりうる様々な問題・課題に対して、リーダーが中心となり、チームで話し合いながら解決を

めざしていく演習をおこなった。

1人ではなかなか気づけないこともチームで話し合うことで色々な案が出たり、講師の長年の経験から対応すべき行動にチーム全員が納得したり、また、次に来るボランティア隊のために今日何ができるかを考え行動する必要があることを学ぶなど、隊員としての資質向上につながる研修となった。



研修の様子

北方領土の返還!故郷への想いをつなごう!四島交流を進めよう!

2019平和行動in根室

連合の平和行動として今年最後となる「平和行動in根室」が9月6日(金)～8日(日)に開催され、連合関東ブロックの一員として連合埼玉から9名が参加した。

2日目の釧路から根室に移動するバスの車内から国後島を見ることができた。国後島は沖縄本島より少し大きいとのことだが、実際に見てみるととても大きく、かつ近くに見えた。しかし、ロシアに不法占拠されてから74年という長い年月が経過しており、視覚的には近いが政治的にはとても遠いという実状を皆が実感した。3日目の「平和ノサップ集会」では霧が濃く、残念ながら歯舞群島の小さな灯台しか見えなかったが、今回の行動で感じたことを地域・職場・家庭に持ち帰り、共有し、国民一丸となって粘り強く返還運動に取り組むことを誓った。

日程

1日目
(9/7)

■北方四島問題学習会

と き 13:00～17:00
場 所 北方四島交流センター
内 容 ①北方四島問題紹介ビデオ
②セミナー

2日目
(9/8)

■2019平和ノサップ集会

と き 11:00～12:00
場 所 納沙布岬・望郷の岬公園
内 容 主催者挨拶・地元歓迎挨拶、来賓挨拶
元島民の訴え、特別報告(竹島問題)
平和メッセージ、ピースリレー
集会アピール採択、ガンパロー

■連合「ねむろ水産フェスタ2019」

と き 12:15～13:15
場 所 歯舞漁港

参加者氏名

竹好 勝巳 (自動車総連/ケーヒン労働組合)
齋藤 恵洋 (電機連合/岩崎電気労働組合埼玉支部)
西村 亮造 (JAM埼玉/リズム時計労働組合)
浅見 文秀 (さいたま市地域協議会/全農林埼玉分会)
細田 将太 (県央地域協議会/JP県央支部)
清水 貴夫 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/
日立金属労働組合熊谷支部)
小杉 貴大 (秩父地域協議会/三菱マテリアル横瀬労働組合)
倉持 萌香 (女性委員会/アドバンテスト労働組合)
小穴真一郎 (連合埼玉副事務局長)

①平和行動に参加したのは何回目ですか?

②感想

①初めて

②納沙布岬に着き、肉眼ではかすかに見える北方領土。地図を見てもわかる近さ約3.4kmしか離れていない、こんな近い島々がロシア領である事にまず衝撃を受けた。不法占拠されてから74年、全ての財産を島に置いてきているにもかかわらず、自由に行き来すらできない。悔しさをたまらない元島民の思いを肌で感じる事が出来た。日ロ領土問題解決に向けてまだ具体的な方向性は見えていない中ではあるものの、早期解決に向け、より多くの仲間がこの現状を認識してもらえよう、今活動をつづけて学んだ思いを共有していきたいと思う。



竹好勝巳

①初めて

②旧ソビエト連邦より北方四島を不法占拠されてから74年が経過した現在でも、北方領土問題が解決されていない。ロシアの実行支配による問題もあるが、日本国民の関心が薄いことも原因のひとつだと考えられる。平和ノサップ集会をつづけて、この問題を解決するには、より多くの国民が北方領土問題について向き合い、関心を持つことによって返還実現につながる第一歩だと思う。また、今後も元島民の方々から語り継がれた歴史を次世代に引き継がれていかなければならない。



齋藤恵洋

①初めて

②実際に根室に行き、街を歩くと道路標識等にもロシア語が併記されていて、街中にも普通にロシアの人が歩いている。正にそこは「国境の町」と感じさせられた。バスで移動中も国後島が見え、納沙布岬からも、歯舞群島が見え、正に近くて遠い島を実感した。領土問題は非常に繊細で難しい問題であるが、目の前にある島と隣国との付き合い方、そして平和にこの問題が解決される様に、我々一人一人がこの問題を正しく理解して、風化させない事が重要であると感じた。皆の知恵を出し合い、平和にこの問題が一步でも前に進むように、今回、見て、感じて、勉強した事を伝えていきたいと思う。



西村亮造

①初めて

②北方領土問題についての認識がほとんどなかったが、平和行動に参加して問題点や現状が少し理解できた気がする。北方四島交流センターでは映画「ジョパンニの島」を初めて見て、当時の島の状況や戦時中の環境等、戦争の悲惨さを感じることができた。現在の状況や環境をふまえながら双方にとってより良い解決方法を考えていく必要があると感じた。ただ、故郷の地に帰れない方々のことを思うと一日も早く解決することを願うばかりだ。北方領土問題について風化させないよう周りの人に伝え、行動したいと考える。



細田将太

①初めて

②北方領土について、学生の頃は四島の名称について覚える程度のため、概要についてわからないまま今に至っていた。今回、平和行動に参加するにあたり、あらかじめ四島の概要や多くの問題を理解して準備を進めてきた。北方四島は「我が国が父祖伝来の地として受け継いだもの、いまだかつて一度も外国の領土となったことがない我が国固有の領土である」と言われている。私の思いとしても、一日も早く島民にもう一度元の生活に戻して幸せな人生を送ってほしいと思う。



浅見文秀

①初めて

②北方領土問題については、私たち関東の人間からすると、学校の授業で聞いた程度で正直あまり関わりがないことだと思っていた。北方四島交流センターにおいて、第二次世界大戦敗戦後に多くの島民が島を強制退去され、今なお帰島を願っている方々がいること。日口間での平和条約が一向に進展しない中で、北方四島の貴重な水産資源や自然環境を守るため、様々なアプローチで領土返還に取り組んでいること等、多くの事を学ぶことができた。「2019平和ノサップ集会」では、全国各地より約1,000名が集結し、連合という組織の大きさを改めて認識することができたとともに、本取組みの趣旨である「元島民の思いを次世代へ継承していく」という意味を学ぶことができた。



清水貴夫



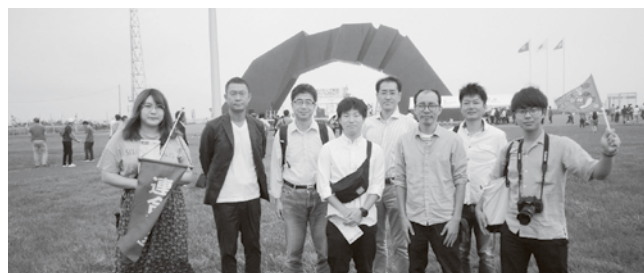
平和ノサップ集会



納沙布岬



四島のかけし



参加者のみなさん

①初めて

②釧路から根室に移動する車内から根室湾に浮かぶ国後島を望むことができた。国後島が地理的に身近な島であることを初めて実感した。国後島をはじめ、北方領土にはかつて多くの日本人が居住し、文化も栄えていたのだらうと想像するに難くなかった。私も北方領土は返還してほしいと考えていたが、それは国家の領域(国益)を考慮してのことであり、島民の気持ちについては特に考えていなかったことに気づかされ、思慮が足りなかったと反省している。北方領土には既にロシア人の生活がある。単に返還を求めるのではなく、島民と日本、そしてロシア、三方が納得する形でこの問題が平和的に解決することを強く望む。



小杉貴大

①2回目

②前回は4年前に参加しその際、元北方領土と聞いても普段なかなか意識することもなく生活されている方がほとんどで、風化されがちである。と元島民の方々が言っていたので、定期的に学ぼうと思い参加した。前回参加したときは元島民の方々は揃って、1日も早く島を取り戻したいということを話していた。しかし今は現島民のロシア人とどうやって島を守っていくか考えているということで数年の間の気持ちの変化に驚いた。日本人は心が広く、またそういう考えができることを誇らしく思う。今回お話しいただいた内容や学んだことは単組でしっかり広めていく。



倉持萌香

ユニバーサルスポーツの楽しさを広めよう!

青年委員会ユースラリー

青年委員会は8月31日(土)～9月1日(日)に、秩父郡小鹿野町にある「赤谷温泉ネクストオジカ」にて、構成組織、青年委員会幹事と合わせ、28名参加のもと、「2019年度ユースラリー」を開催した。初日は、「ユニバーサルスポーツフェスタ」として、車いすバスケ・スポーツウェルネス吹矢・卓球バレーの3種目を体験した。

車椅子バスケ体験

基本的なルール・競技用車いすの操作方法を学んだ後、選手を交えてのチーム対抗戦をおこなった。車椅子でボールを扱うことは想像より遥かに難しく、選手たちの凄さを痛感した。

スポーツウェルネス吹矢体験

5m～10m先の的を吹矢で狙うスポーツで、腹式呼吸法と集中力が非常に重要となる。気を抜くと、腹式呼吸がうまくいかず、正確に的を狙うことが難しいため、参加者は真剣な面持ちで取り組んでいた。

卓球バレー体験

卓球台に1チーム6名、計12名が椅子に座りながらピンポン玉を打ち合うスポーツ。予想以上に勢いのある球のやり取りに、参加者は、白熱しつつも、笑顔の絶えない試合を繰り広げた。

2日目は、青年委員会活動報告、佐藤事務局長から、「労働組合の社会的役割 労働運動の起源」をテーマに、貴重な講演をいただいた。戦後の日本における労働運動の移り変わりと、次世代を担う青年層へ向けたメッセージを心に刻んだ。

青年委員会では、今後益々の活発な活動と、運動を共にする仲間を増やしていく事をめざし、取り組みを推進していく。(青年委員会事務局次長 白戸貴文)



車いすバスケ体験の様子



参加者のみなさん

公労使で取り組む「働き方改革」で地域の活性化を目指そう!

～ 2019地域フォーラム開催 ～

8月29日(木)大宮ソニックシティビル4階「市民ホール」にて、労働組合役員、企業経営者、埼玉県、埼玉労働局の関係者など約100名の参加のもと、埼玉県経営者協会・埼玉労働局・埼玉県との共催、埼玉県生産性本部の協力により2019地域フォーラムを開催した。このフォーラムは中小企業の活性化を地域の活性化に結び付ける目的で2016年より開催しているものであり、本年度で4回目の開催となる。本年は昨年に引き続き「公労使で取り組む『働き方改革』で地域の活性化を目指そう」をテーマとした。最初に東京大学大学院経済学研究科・経済学部教授 柳川範之氏



柳川範之氏

を広げていくことが有効であることを学んだ。その後、企業・労働組合の取り組み報告としてブリヂストンBRM株式会社 伊集院桃子氏、沖電気工業労働組合蕨支部執行委員長 森洋介氏より報告をいただき、最後に埼玉労働局雇用環境・均等室長 手塚和子氏より、埼玉県公労使会議の取り組み内容の報告をいただいた。



森洋介氏



手塚和子氏

今回のフォーラムで学んだ考え方を職場の活性化に活かしていきたい。



伊集院桃子氏

により「人口減社会に対応した働き方改革の本質を考える」と題し、基調講演をいただいた。講演では、少子高齢化の進む人口減社会では、活力ある高齢者の活躍が必須であり、そのためには40～50代でのリカレント教育により活躍できる領域



会場の様子

ネットワークSAITAMA21運動

夏休み親子・ファミリー自然体験プランin尾瀬



谷内委員長

ネットワークSAITAMA21運動では、親子・家族などで尾瀬の自然に触れ、自然の大切さと保全の重要性などを学ぶ機会として「夏休み自然体験プラン」を設けている。本年度も、7月27日(土)～28日(日)の2日間、構成組織の組合員とその家族らの参加者と事務局をあわせ41名の参加のもと「夏休み自然体験 2019in尾瀬」を開催した。

1日目(27日)は、尾瀬の自然の豊かさと環境保全の歴史についての学習会として、「尾瀬自然教室ギャラリー」を見学した後に、現地山岳ガイドの方よりスライ

ド、模型を用いたわかりやすい講義を受けた。

2日目(28日)は、「尾瀬ヶ原コース」と「至仏山コース」に分かれ、環境保全状態を確認しながら豊かな自然に触れるウォーキング・登山をおこなった。前日から降り続く雨模様の中での自然体験となったが、参加者の皆さんは、高山植物をはじめとする尾瀬にしかない貴重な自然を体験することができ、このような貴重な自然を人の手で汚すことのないよう保全していくことの重要性を考えるきっかけとなった。



開会の様子



尾瀬を楽しみたための講義



ひとやすみ



至仏山山頂



参加者のみなさん

夏休み親子自然体験教室「山の学校inときがわ」

親子で自然に触れることにより自然環境の大切さを学ぶことを目的に、夏休みを利用して、『山の学校 in ときがわ』を本年も開催した。

8月3日(土)に、ときがわ町ふれあいの里たまがわ「川の広場バーベキュー場」で開催し、組合員とその家族、東日本大震災の避難者およびスタッフ168名の参加があった。今年も午前中は、バーベキュー場で川遊びやビニールプールで水遊びをする家族と、ときがわ上流での川遊び(小学生以上限定)の2コースを準備した。参加した子どもたちは、川水の冷たさを感じながら自然や生き物とのふれあいを思う存分楽しむことができた。午後からの2グループが合流してのバーベキューでは、参加者自らが火おこしをおこなうなど、悪戦苦闘しながらも、家族で協力して調理し食べるバーベキューは格別のものとなった。

その後は、流しそうめんをおこない、普段なかなかできない竹での流しそうめんに参加した子どもたちは大喜びだった。



流しそうめん



川遊び



スイカ割り



参加者のみなさん

流しそうめんのあとは、子どもたちによるスイカ割りをおこない、甘いスイカを参加者全員で味わうこともできた。

いまでも豊かな自然が残る都幾川で家族とともに過ごす1日は、子どもたちにとって、思い出に残る貴重な一日となった。

連合埼玉第29回チャリティーゴルフ大会結果

9月20日(金)に、おおむらさきゴルフ倶楽部にて、構成組織・地域協議会・福祉事業団体・関係諸団体とのスポーツ交流会として、182名の参加のもとチャリティーゴルフ大会を開催した。

当日の天気も晴れ、多少暑さを感じる時間帯があったものの、絶好の交流日和となった。

チャリティー募金は176,590円となり、「ふれあい募金」に活用させていただく。



優勝した田胡裕規さん

順位	グロス	ハンデ	ネット	組織名	氏名
優勝	105	33.6	71.4	本庄・児玉郡市地協	田胡 裕規
準優勝	86	14.4	71.6	熊谷・深谷・寄居地協	関口 恒雄
3位	98	26.4	71.6	自動車総連	白淵 伸二
ベストグロス	82	8.4	73.6	JP労組	石原 智

現在予定される10月の日程表です

10月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 火		
2日 水		最低賃金審議会「第6回本審」(9:30～・埼玉労働局)
3日 木	第11回四役・執行委員会(～4日・ホテル木暮)	
4日 金		
5日 土		
6日 日		自治労埼玉県本部「第80回定期大会」(11:00～・さいたま共済会館)
7日 月	2019年度「地協ブロック連絡会」「市長・町長政策懇談会」(10:00～・15:00～・さいたま共済会館)	秩父地域協議会「第11回幹事会」(18:00～・勤労者福祉センター)
8日 火	2019年度「地協ブロック連絡会」「市長・町長政策懇談会」(10:00～・15:00～・久喜三高サロン)	
9日 水		①第6回地方連合会代表者会議(14:00～・新宿文化センター) ②(公財)国際労働財団設立30周年記念レセプション(18:00～・ホテルグランドアーク半蔵門)
10日 木		①連合「第16回定期大会」(9:45～・11日12:00・新宿文化センター) ②埼玉労協「2019年度第4回地域労協代表者会議」(13:00～・こくみん共済coop埼玉推進本部) ③埼玉労協「2019年度第3回政策制度会議」(15:00～・こくみん共済coop埼玉推進本部)
11日 金	女性のためのSTEP UPセミナー(10:00～・10/12 12:00・あけぼのビル)	埼玉新聞社創刊75周年記念式典(15:00～19:00・ノリスホテル大宮)
12日 土		①UAゼンセン埼玉県支部「第8回定期総会・懇親パーティー」(14:00～・17:40～・浦和ワシントンホテル) ②JEC連合埼玉地方連絡会「第18回定期総会」(14:00～・ときわ会館)
13日 日	青年委員会「環境文化体験学習in屋久島」(～16日・屋久島)	
14日 月		
15日 火		埼玉公務労協「第6回総会」(18:30～・あけぼのビル)
16日 水	2019年度「地協ブロック連絡会」「市長・町長政策懇談会」(10:00～・15:00～・熊谷キングアンバ(サダーホテル))	川越・西入間地域協議会幹事会
17日 木		埼玉労協協議会(10:00～・ときわ会館)
18日 金	2019年度「地協ブロック連絡会」「市長・町長政策懇談会」(10:00～・15:00～・川越東武ホテル)	
19日 土		
20日 日		
21日 月		
22日 火		
23日 水	「メンタルヘルス研修会(基礎編)」(10:00～16:30・埼玉会館)	
24日 木	政策制度要請「県との話し合い」(9:45～・埼玉会館)	
25日 金	①ネット21「第4回運営委員会」(9:30～・連合埼玉会議室) ②埼玉シニア連合「第5回四役会・第6回幹事会」(13:00～・14:00～・連合埼玉会議室)	
26日 土		
27日 日		
28日 月		埼玉連「第60回定期大会」(14:00～・浦和ワシントンホテル)
29日 火	組合役員教育プログラム修了証書授与式(16:00～・連合埼玉会議室)	
30日 水		
31日 木		

Akebono Building

あけぼのビル

| 事務局長 |

佐藤 道明 |

◆参議院補欠選挙「上田清司」氏を推薦

10月10日告示、27日投開票で参議院埼玉選挙区の補欠選挙がおこなわれる。今回の補欠選挙は、大野元裕知事が参議院議員を辞職したことに伴うものである。

連合埼玉は、9月20日に補欠選挙に立候補することを正式表明した前埼玉県知事の上田清司氏の推薦を決定し、この補欠選挙を戦う。上田氏は、県政と国政の架け橋として、埼玉県の更なる発展と国政の改革を目指すとしている。

主な4つの政策として、地方重視の政治、行財政改革、誰ひとり取り残さない社会の実現、持続可能な社会づくりを掲げ、衆議院議員3期を経て知事を4期16年、全国知事会会長の経験と実績を生かして、即戦力として誰もが住みやすい日本をつくっていきたいと考えを示している。

今年は4月の統一地方選挙、7月の参議院選挙、8月の県知事選挙と大きな選挙が立て続けにおこなわれ、連合埼玉も構成組織・加盟組合、地域協議会とその都度取り組んできた。3つの選挙に共通して言えることは、低投票率に歯止めがかからないと言うことだ。

統一地方選挙では、選挙結果については一定の成果を得られたものの、東日本大震災直後の自粛ムードの中でおこなわれた8年前の県議選では39.54%と初めて40%を割り込み、前回はさらに1.86ポイント低い37.68%、今回はさらに2.16ポイント下げ35.52%と過去最低を更新し続けている。4月7日に投開票された全国41道府県議選で最も低い数字である。

さいたま市議選の投票率は38.16%で、前回の40.39%より2.23ポイント下げ過去最低を更新、後半戦の市・町議選の平均投票率は前回の43.84%を下回り41.10%と過去最低を更新した。

参議院選挙埼玉選挙区の投票率は46.48%で、2016年の前回(51.94%)を5.46ポイント下回った。1992年7月の37.94%、1995年7月の38.92%に次いで、過去3番目に低い投票率となった。

県知事選挙の投票率は32.31%と、前回4年前(26.63%)より5.68ポイント上回り、16年ぶりに30%台となった。知事選の投票率は2011年に24.89%で全国の知事選で史上最低を記録するなど、直近の3回は20%台に低迷していた。30%台に回復したとは言え、喜べる投票率ではないことは言うまでもない。

10月10日告示、27日投開票でおこなわれる参議院補欠選挙も低投票率が懸念される。参議院補欠選挙を戦うにあたって、改めて労働組合における政治活動の必要性和活動について認識をひとつにしておきたい。

◆政治活動の必要性

私たちの暮らしは政治と深くつながっている。労働組合は賃金や労働条件の維持・向上、職場環境の改善などに取り組んでいるが、私たちの暮らしの向上には、職場内、企業内の労使間だけでは解決できないことが数多くある。働く環境に影響する様々な法律、暮らしに直接影響する税や社会保障などは国や地方自治体によるところが極めて大きい。

連合は組合員のみならず、すべての働く人たち、その家族のための政策・制度をつくり、政治活動をつうじてその実現をはかっている。連合が掲げる「働くことを軸とする安心社会」を構築する手段として、政治活動は重要であり、政治を動かすためにも私たち労働者の立場に立った政策を実現する政党・政治家の存在が必要である。

◆労働組合の政治活動

労働組合の政治活動と言えば「選挙運動」を思い起こす人が多いと思うが、政治活動と選挙運動はイコールではない。政治活動の大きな柱のひとつに選挙運動があることは事実ではあるが、他にも政策を立案して実現する活動、政治教育活動、組織を充実・強化する活動などがある。

「政策実現活動(政策・制度要求)」は、勤労者・国民の立場に立って政策を立案し、国会をはじめとする各級議会をとおしてその実現をはかる活動である。また、審議会などに代表を派遣し、行政に私たちの意見を反映させる取り組みも重要な政策実現活動のひとつと言える。

「政治教育活動」は、組合員に政治活動の重要性を理解してもらい、選挙運動などの取り組みに参加してもらうための活動である。「なぜ政治活動に取り組むのか」「なぜ〇〇党を支援するのか」「連合の取り組みはどうなっているのか」など、加盟組合・構成組織・連合の各レベルで、様々なテーマに関して継続的に教育活動をおこなうことが、充実した政治活動の基盤になる。

「組織強化活動」は、労働組合にとって日常の取り組みであり、必ずしも政治活動と呼ぶべきものではないかもしれないが、民主的な組織運営や成果を引き出す日常的な活動を積み重ねることで組合員の執行部に対する理解と信頼は向上し、政治活動への参加と協力を得る基盤となる。こうした信頼の上に立った政治活動は、組織に活力を与え、組織強化の大きな力となる。

「連合の政治理念」には、次のように示されている。「連合は、政府、政党などとは異なる自主的組織としての主体性を堅持しつつ、目的と政策を共有する政党および政治家と協力して、労働者とその家族の労働と生活環境の改善をはかり、真の『ゆとり・豊かさ』を実現する」。

私たちは国や地方自治体に直接働きかけられるよう、「連合の政治理念」を共有できる政党や政治家と連携・協力していく必要がある。その取り組みのひとつが選挙であり、その第一歩が投票行動である。

2019.9.25